



シヨパンで
歌舞伎
中村福助さん 3

イージス艦衝突事故中間報告
海保元幹部が読む 4

迷走 福田内閣 5

いじめ防ぐために
親ができること 9

米兵事件に抗議
沖縄県民大会 16



新シリーズ 地球の明日
サンゴの危機 18
19 華人加織さん スポット 31

がん予防食生活 32

キヤノン正社員

この低賃金 35



鳴子地区・黒崎寿交々会会長 遠藤弘志さん

市老連事務局長 鹿野勇蔵さん

市老連会長 小原茂さん

鳴子地区老連会長 高橋榮さん

後期高齢者医療

わがわが 知らねえ 知らねえ

宮城 大崎市

老人会 決起

大崎市老人クラブ連合会の役員のみなさん

実施後も断固反対

大崎市老人クラブ連合会会長の小原茂さん(78) 戦前・戦後の苦難の時代を生き抜いてきたわれわれをばかにしないでほしい。いつまでも黙って政府の意のままだと思ったら大間違いです。

後期高齢者医療制度を中止・撤回させるためには、党派を超えた運動が必要です。岐阜県や北海道で自民党議員を含めた「断固反対」の流れが生まれていると聞き、励まされています。制度の中身を早く正確に知らせれば、各地で火の手が上がるはず。今からでも遅くない。4月の実施後も粘り強く撤回署名を集めていきたい。

後期高齢者医療制度の4月実施を目前にして、いま高齢者の怒りが列島に渦巻いています。市老人クラブ連合会(市老連)が主催した同制度の勉強会が、抗議集会さながらになった。そんな情報を耳にし、山々に雪が残る宮城県大崎市を訪ねました。北條伸矢記者

1市6町が2年前に合併した大崎市は人口13万8千人。後期高齢者とされる75歳以上は1万7千人です。162の単位老人クラブが加盟する市老連が勉強会を開催したのは3月12日。

古川民主病院(全日本民医連加盟)の専門家、金野由紀枝さん呼び、制度改悪の歴史的流れや年金からの天引き、差別医療の実態を詳しく学びました。

講師の説明の直後でした。「絶対反対だ」「これでは生きていく人間も死んでしまふ」。老人クラブ会長らが次から次へ発言を求め、怒りをぶちまけ始めました。

「勉強会で初めて制度がわかった。中身を知らねえがねえわけにはいがない」と語るのは市老連事務局長の鹿野勇蔵さん(81)です。参加者はその場で、中止・撤回を求める署名をおのおの集めることを決めました。

このとき率先して発言したのが「鳴子地区老連」会長の高橋榮さん(84)。記者が訪ねた朝に届いたばかりの「後期高齢者医療被保険者証」を手に、怒りが収まりません。

「私は地元の防犯協会で58年間活動し、藍綬褒章(らんじゅほしょう)をいただいた。それなのに、年金は当初からずっと上がらず、介護保険料など年金からの天引きは年々増えている。いったい、どういふことなのか。黙っていられないという心境だ」

6面に続く